



東京都稲城市
多摩市 環境部環境推進課 課長 星野 正春 さん

Q 差し支なければ、年齢と出身地を教えてください。

A 昭和41年生まれで57歳。東京都港区出身で、現在は稲城市在住です。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

A 平成15年に係長に昇任し、環境部ごみ総合対策課減量推進係長(当時の職名)に着任してからというところでしょうか。

それまでも多摩市では、家庭ごみの収集がダストボックス収集から戸別収集、ステーション収集に変わったり、現在の職場である資源化センター(エコプラザ多摩)ができて、古紙やびん、カン、ペットボトルなどの更なる資源化への取組が進められるなど、ごみの分別や排出については庁内でも気をつけようということはありませんでした。

自分がごみ対策に携わる頃には、近隣市でのごみの有料化が始まり、多摩地域の各自治体が更なるごみ減量の取組を展開している頃でした。

多摩市でも廃棄物減量等推進審議会の答申をいただき、ごみ有料化やプラスチック類の分別を進めるため、地域での説明会や駅頭などでのキャンペーンを行い、市民団体の皆さんとも生ごみリサイクル講習会やレジ袋削減キャンペーンなどの取組を、協働で行ってきました。地域での出前説明会には市役所の部署を超えて、当時の管理職の皆さんに応援をいただきました。

有料化については、平成17年12月の市議会に条例案を付議しましたが、残念ながら審議未了になってしま

いました。この際に「有料化の前にはできることをやれ」というような反対意見もあり、じゃあ「やってやろうじゃないか」と、市民団体の皆さんや大学などと連携して、さまざまな取組を展開していきました。

多摩市のごみ有料化実施の前に別部署に異動になりましたが、平成28年度から八王子市、町田市と本市で構成する多摩ニュータウン環境組合に3年間派遣となり、久しぶりに廃棄物処理の現場に戻りました。平成31年度からはまた別部署に異動しました。そして令和5年4月に再び環境部資源循環推進課に戻りました。

Q ごみかんに入会して下さったきっかけは何ですか？

A 係長在職時に市民団体さんとの連携でさまざまな取組をしていたことは前述のとおりですが、その際、他市の市民団体と連携したこともありましたが、

その頃、ごみかんさんから多摩市のインタビューをしたいとお話をいただき、当時の国分寺の「アジト」みたいなところでヒアリングを受けたのをきっかけに、ごみかんさんが主催している講演会などにも参加させていただくようになりました。

Q ごみ問題に関わること以外で趣味や生きがいは？

A 趣味は旅行です。ただ、旅先でもついそこのごみの分別だとか清掃工場の煙突とか気になってしまいますね。

Q 特筆すべき近況があれば教えてください。

A 1つめは令和5年度から収集する使用済ペットボトルの水平リサイクル(ペットボトルからペットボトルへのリサイクル)を飲料メーカーとの協定に基づき開始しました。そのため、ペットボトルの品質向上計画を策定し、改めてキャップやラベルを外し中を軽くすすいでいただくという排出ルールの徹底を進めています。

2つめは、小型充電式電池等の行政回収を開始したことです。ごみ収集車や清掃工場のピットでの火災が発生していることから、排出ルールの徹底を進め、安全なごみ処理を進めています。

3つめは東京都、早稲田大学との3者協定により、燃料電池ごみ収集車両によるごみ収集の実証実験を5月から開始します。丘陵地の多い本市での実証実験が円滑に行われることで、こうした燃料電池収集車が増えると、水素社会の実現や温室効果ガスの削減にも寄与することになると考えています。



Q ごみかんにご期待したいこと、あるいは提案したいことは？

A 毎日の生活や事業活動に伴って排出されるごみの分別や減量は、行政だけの力では難しい問題です。ごみかんさんのように、市民、事業者、行政とを結びつける活動は非常に重要です。今後ともよろしく願います。